

令和5年

東北地方

一級河川の水質現況

Recent condition of water quality of class A river in Tohoku

2023

1. 主要河川の地点別年平均水質
2. 生活環境の保全に関する環境基準の満足状況
3. 人の健康の保護に関する環境基準の満足状況
4. 住民参加による水質調査
5. ダイオキシン類実態調査結果
6. 水質事故等の発生状況

Colum

名取川における水環境保全の取り組み

Contents

1. 主要河川の地点別年平均水質	01
2. 生活環境の保全に関する環境基準の満足状況	02
3. 人の健康の保護に関する環境基準の満足状況	03
4. 住民参加による水質調査	04
1) 今後の河川（湖沼）水質管理の指標調査.....	04
2) 水生生物による簡易水質調査（水生生物調査）	08
5. ダイオキシン類実態調査結果	09
6. 水質事故等の発生状況	10

Colum

名取川における水環境保全の取り組み	12
-------------------------	----

（参考資料）各調査地点（BOD・COD）調査結果及び満足状況	15
--------------------------------	----

1. 主要河川の地点別年平均水質

令和5年水質調査結果

阿武隈川水系荒川が14年連続で「平均的な水質(BOD 値)が最も良好な河川※」となりました。

令和5年の東北地方20河川の水質状況

(単位: mg/l)

水系名	河川名	調査地点	平均値	県名	地点数	水系名	河川名	調査地点	平均値	県名	地点数		
阿武隈川	阿武隈川	黒岩	1.3	福島	7	北上川	胆沢川	望み大橋	0.5	岩手	3		
		高田橋	1.5	福島				再巡橋	0.7	岩手			
		須賀川	0.9	福島				下嵐江	< 0.5	岩手			
		阿武隈川	荒川	阿久津		1.0	福島	馬淵川	馬淵川	櫛引橋	0.7	青森	3
				伏黒		1.1	福島			尻内橋	0.6	青森	
				岩沼		1.0	宮城			大橋	0.7	青森	
				丸森		1.5	宮城						
阿武隈川	荒川	荒川橋	< 0.5	福島	岩木川	岩木川	鶴寿橋	1.6	青森	12			
		信夫橋	0.5	福島			鳥谷川河口	1.1	青森				
名取川	名取川	関上大橋	1.0	宮城			神田橋	1.1	青森				
		名取橋	1.1	宮城			津軽大橋	1.6	青森				
鳴瀬川	鳴瀬川	小野	1.2	宮城			十三湖大橋	1.0	青森				
		南郷	1.0	宮城			幡龍橋	1.3	青森				
		下中ノ目	0.9	宮城			山田川河口	1.3	青森				
		三本木	1.0	宮城			安東橋	0.6	青森				
鳴瀬川	吉田川	鹿島台	1.5	宮城			十三湖中央	1.2	青森				
		落合	1.2	宮城			乾橋	1.4	青森				
北上川	北上川	飯野川橋	0.8	宮城	上岩木橋	0.9	青森	三好橋	1.3	青森	5		
		飯野川	1.2	宮城	米代川	米代川	鷹巣	0.7	秋田				
		登米	0.8	宮城			能代	0.6	秋田				
		大泉	0.8	宮城			新真中橋（真中橋）	0.6	秋田				
		金ヶ崎橋	1.0	岩手			十二所	0.6	秋田				
		藤橋	0.9	岩手			二ツ井	0.7	秋田				
		船田橋(2)	0.8	岩手			雄物川	雄物川	雄物川橋	0.6	秋田	5	
		紫波橋	0.8	岩手	酒蔭橋	< 0.5			秋田				
		珊瑚橋	1.0	岩手	榑川	0.7			秋田				
		狐禅寺	1.0	岩手	岳見橋	0.6			秋田				
		朝日橋	1.1	岩手	大曲橋	0.7			秋田				
		昭和橋	1.0	岩手	雄物川	玉川	長野	0.5	秋田	2			
		四十四田ダム下流	0.8	岩手			玉川橋	0.6	秋田				
		南大橋	0.7	岩手	子吉川	子吉川	本荘大橋	0.6	秋田	2			
		北上川橋	1.3	岩手			宮内	0.6	秋田				
		北上大橋	0.9	岩手	最上川	最上川	高屋	0.8	山形	8			
北上川	旧北上川	鹿又	0.9	宮城			長井橋（小出）	1.1	山形				
		門脇	0.8	宮城			谷地橋（下野）	0.8	山形				
		和刈	0.9	宮城			糠野目	1.4	山形				
北上川	江合川	轟	0.5	宮城			碁点橋（稲下）	1.1	山形				
		荒雄	0.9	宮城			砂越	0.8	山形				
		短台	1.0	宮城			堀内	0.9	山形				
		大深沢	0.5	宮城			両羽橋	0.9	山形				
北上川	和賀川	山室橋	0.6	岩手	最上川	鮭川	戸沢橋	0.6	山形	2			
		切留	1.1	岩手			八千代橋	0.6	山形				
		九年橋	0.7	岩手	赤川	赤川	蛾眉橋（横山）	0.9	山形	3			
北上川	猿ヶ石川	谷内	0.7	岩手			東橋	0.6	山形				
		落合橋	0.7	岩手			新川橋（浜中）	0.9	山形				
		安野橋	0.9	岩手									
表中の<は、定量下限値であることを示す。													

表中の<は、定量下限値であることを示す。

※「平均的な水質が最も良好な河川」の定義

対象河川のうち以下の両方を満たす河川

・各調査地点の BOD 年平均値について、全調査地点で平均をとった値が 0.5mg/ℓ

・各調査地点の BOD75%値について、全調査地点で平均をとった値が 0.5mg/ℓ

(0.5mg/ℓ : 環境省の定める BOD の報告下限値)

(対象河川)

・一級河川(本川) : 直轄管理区間に調査地点が2以上ある河川

・一級河川(支川) : 直轄管理区間延長が概ね 10km 以上、かつ直轄管理区間に調査地点が2以上ある河川

2. 生活環境の保全に関する環境基準の満足状況

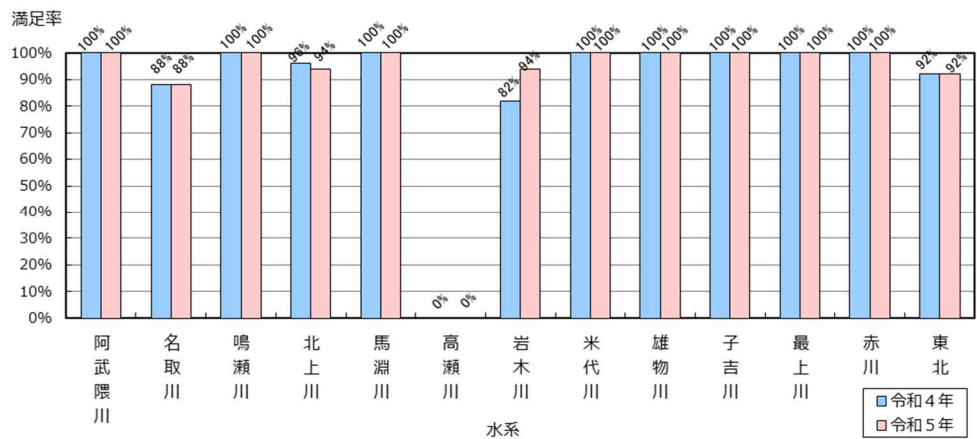
令和5年水質調査結果

生活環境の保全に関する環境基準項目のうち、BOD値又はCOD値（水質有機汚濁の代表的な指標）が全ての調査地点で環境基準を満足した水系は、12水系中8水系となりました。

生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準（環境基準）として定められている項目について水質調査を実施しています。

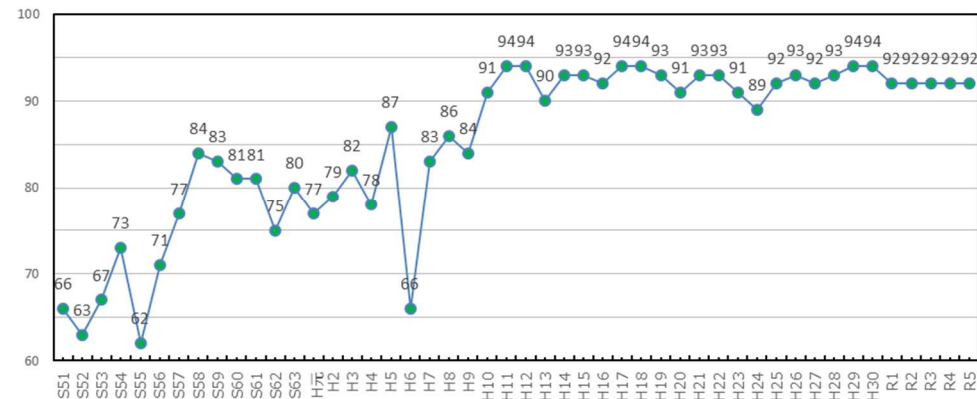
生活環境の保全に関する環境基準項目	
pH（水素イオン濃度）	n-ヘキサン抽出物質
BOD（生物化学的酸素要求量）	総窒素
COD（化学的酸素要求量）	総リン
SS（浮遊物質）	全亜鉛
DO（溶存酸素量）	ノニルフェノール
大腸菌群数	LAS（直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩）
	低層DO（溶存酸素量）

○令和5年は12水系中8水系において全ての調査地点でBOD値又はCOD値が環境基準を満足しました。



※高瀬川は、湖沼での調査地点が多く、全国的にも湖沼等（海域を含む）の満足率は45%と低い数値となっている。

○東北地方整備局管内の全調査地点におけるBOD値又はCOD値の経年的な満足状況は、令和5年は92%であり、高い割合で維持しています。



※「環境基準」は、川の一定の区間及びダム・湖沼で、望ましい水質の目標を定めた値で、川の一定区間毎に類型が指定されており、その類型毎に基準値が定められている。一般に河川ではBOD75%値、ダム・湖沼ではCOD75%値で判断します。

3. 人の健康の保護に関する環境基準の満足状況

令和5年水質調査結果

ほとんどの地点で環境基準を満足しましたが、砒素が2地点、ほう素が1地点で環境基準を満足できませんでした。砒素及びほう素はいずれも自然由来と推定されています。

人の健康の保護するうえでの基準（環境基準）として定められている27項目について水質調査を実施しています。

人の健康の保護に関する環境基準項目	
カドミウム	1, 1, 1-トリクロロエタン
全シアン	1, 1, 2-トリクロロエタン
鉛	トリクロロエチレン
六価クロム	テトラクロロエチレン
砒素	1, 3-ジクロロプロペン
総水銀	チウラム
アルキル水銀	シマジン
P C B	チオベンカルブ
ジクロロメタン	ベンゼン
四塩化炭素	セレン
1, 2-ジクロロエタン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素
1, 1-ジクロロエチレン	ふっ素
シス-1, 2-ジクロロエチレン	ほう素
	1, 4-ジオキサン

○環境基準を満足できなかった地点は、砒素が2地点、ほう素が1地点となります。

超過項目	水系河川名	地点名	最大値 (mg/ℓ)	年間平均値 (mg/ℓ)	環境基準値 (年間平均値) (mg/ℓ)	原因
砒素	北上川水系小鬼ヶ瀬川	天子森	0.022	0.012	0.01	自然由来
砒素	北上川水系江合川	大深沢	0.028	0.022	0.01	自然由来
ほう素	北上川水系江合川	大深沢	1.360	1.335	1	自然由来

4. 住民参加による水質調査

1) 今後の河川（湖沼）水質管理の指標調査

河川をBODだけでなく多様な視点で評価する今後の河川水質指標による調査を、河川では平成17年から、湖沼では平成22年から実施しています。

この背景には、一級河川のBOD（またはCOD）値が環境基準値を満足している割合が9割に達し、水質改善が進む一方で、水質改善に伴い、人々が河川とふれあう機会が増え、河川の多様な生態系に対する関心が高まっているため、BODだけでなく多様な視点で河川を捉えることが求められていることがあります。

調査内容には、住民との協働による調査項目が含まれており、河川管理者だけでなく、住民参加型の調査となっています。（ゴミの量、透視度、川底の感触、水の臭い、生物の生息）

令和5年は6水系20地点で調査を行い、そのうち、住民等参加による調査は4水系6地点で、小中学生等延べ137人、6団体の参加を得て調査を実施しました。

（※水生生物による簡易水質調査参加人数との重複あり）

・調査結果については、「人と河川の豊かなふれあいの確保」では、『B:川の中に入って遊びやすい』以上の評価が75%を占め、「豊かな生態系の確保」では、『A:生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好』が80%を占めるなど、良好な環境となりました。

○今後の河川水質管理の指標【4つの評価項目】（赤字が住民による評価項目）

①「人と河川の豊かなふれあいの確保」

水質に関係する分かりやすい指標（**ゴミの量、透視度、川底の感触、水の臭い**、糞便性大腸菌群数）により評価

②「豊かな生態系の確保」

水生生物の生息・生育・繁殖に関係する指標（呼吸に支障が無いこと（DO）、毒性が無いこと（NH₄-N）、**生物が生息していること**）により評価

（※NH₄-N=アンモニウム態窒素：し尿や家庭下水中の有機物の分解に起因する）

③「利用しやすい水質の確保」

上水利用・農業用水・工業用水・水産用水の利用に関係する指標（トリハロメタン生成能、2-MIB、ジオスミン、NH₄-N）により評価

④「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」

下流部の富栄養化や閉鎖性水域（ダム・湖沼・湾）の富栄養化への影響に関係する指標（T-N、T-P）により評価

○今後の湖沼水質管理の指標【4つの評価項目】（赤字が住民との協働調査）

①「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」

水質に関係する分かりやすい指標（**ゴミの量、透視度、湖底の感触、水の臭い**、アオコ発生、糞便性大腸菌群数）により評価

②「豊かな生態系の確保」

水生生物の生息・生育・繁殖に関係する指標（呼吸に支障が無いこと（DO）、毒性が無いこと（NH₄-N）、**生物が生息していること**）により評価

（※NH₄-N=アンモニウム態窒素：し尿や家庭下水中の有機物の分解に起因する）

③「利用しやすい水質の確保」

上水利用に関係する指標（トリハロメタン生成能、2-MIB、ジオスミン、NH₄-N）により評価

④「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」

下流部の富栄養化や閉鎖性水域（ダム・湖沼・湾）の富栄養化への影響に関係する指標（T-N、T-P）により評価

○今後の河川水質管理の指標

住民との協働による調査項目①、②の調査結果を以下に示す。

①「人と河川の豊かなふれあいの確保」の調査結果

年間評価ランク	地点数	河川名/地点名
A	1	北上川水系中津川 / 中の橋
B	8	名取川水系名取川 / JR名取川鉄道橋 名取川水系広瀬川 / JR広瀬川鉄道橋 阿武隈川水系阿武隈川 / 丸森橋 雄物川水系雄物川 / 松ノ木河川公園 最上川水系最上川 / 本合海 最上川水系丹生川 / 丹生川大橋 最上川水系金山川 / 水辺の楽校 最上川水系鮭川 / 戸沢橋
C	3	阿武隈川水系阿武隈川 / 天神橋 阿武隈川水系白石川 / 白幡橋 雄物川水系成瀬川 / 成瀬川橋
D		-
合計	12	-

※地点評価は、最も低いランクとし、年間の地点評価とも、最頻ランク（最頻ランクが2つ以上の場合は低い方）としている。

「人と河川の豊かなふれあいの確保」の評価項目と評価レベル（赤枠は住民との協働調査）

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル※1)				
			ゴミの量	透視度 (cm) ※2)	川底の感触 ※3,4)	水のにおい	糞便性大腸菌群数 (個/100ml)
A	顔を川の水につけやすい		川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上	不快感がない	不快でない	100 以下
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	ところどころヌルヌルしているが、不快でない		1000 以下
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあつて不快である	30以上	ヌルヌルしており不快である	水に鼻を近づけて不快な臭いを感じる 風下の水際に立つと不快な臭いを感じる	1000 を超えるもの
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあつてとても不快である	30未満		風下の水際に立つと、とても不快な臭いを感じる	

※1 評価レベルについては、河川の状況や住民の感じ方によって異なるため、必要に応じて住民による感覚調査等を実施し、設定することとする。

※2 実際には100cmを超える水質レベルを設定すべきであり、今後の測定方法の開発が望まれる。

※3 川底の感触とは、河床の礫に付着した有機物や藻類によるヌルヌル感を対象とする。そのため、川底の感触は、ダム貯水池、湖沼、堰の湛水域には適用しない。

※4 感触の「不快感」については、各々以下のイメージである

A:素足で入りたいと感じる B:履物があれば入りたいと感じる C:履物をはいても入りたくない

②「豊かな生態系の確保」の調査結果

年間評価ランク	地点数	河川名/地点名
A	8	北上川水系中津川 / 中の橋 阿武隈川水系阿武隈川 / 丸森橋 阿武隈川水系白石川 / 白幡橋 名取川水系名取川 / JR名取川鉄道橋 名取川水系広瀬川 / JR広瀬川鉄道橋 雄物川水系成瀬川 / 成瀬川橋 雄物川水系雄物川 / 松ノ木河川公園 最上川水系金山川 / 水辺の楽校
B	1	最上川水系丹生川 / 丹生川大橋
C	1	阿武隈川水系阿武隈川 / 天神橋
D	0	-
合計	10	-

※地点評価及び年間の地点評価とも、最も低いランクとしている。

「豊かな生態系の確保」の評価項目と評価レベル（赤枠は住民との協働調査）

ランク	説明	評価項目と評価レベル		
		DO(mg/ℓ) *1)	NH4-N(mg/ℓ) *2)	水生生物の生息*3)
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7 以上	0.2 以下	I. きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5 以上	0.5 以下	II. 少しきたない水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3 以上	2.0 以下	III. きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ等
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3 未満	2.0 を超えるもの	IV. 大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ等

※ 1 「DO」： 溶存酸素。水生生物が生きていくうえで不可欠な水中の酸素量。

※ 2 「NH4-N」： アンモニウム態窒素。水生生物に影響を与える毒性を評価する指標。

※ 3 水生生物の生息は流れのある瀬で調査を実施する。そのため、水生生物の生息はダム貯水池、湖沼、堰の湛水域には適用しない。

○今後の湖沼水質管理の指標

住民との協働による調査項目①、②の調査結果を以下に示す。

①「人と河川の豊かなふれあいの確保」の調査結果 ⇒ 令和 5 年は調査なし

②「豊かな生態系の確保」の調査結果※湖沼において住民との協働調査なし

年間評価ランク	地点数	湖沼名/地点名
A	0	－
B	0	－
C	0	－
D	2	阿武隈川水系摺上川ダム / 基準地点 阿武隈川水系三春ダム / 基準地点
合計	2	－

※地点評価及び年間の地点評価とも、最も低いランクとしている。

「豊かな生態系の確保」の評価項目と評価レベル

ランク	説明	評価項目と評価レベル	
		底層 DO (mg/L)	NH ₄ -N (mg/L)
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7 以上	0.2 以下
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5 以上	0.5 以下
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3 以上	2.0 以下
D	生物の生息・生育・繁殖しにくい	3 未満	2.0 を超えるもの

※ 1 「底層 DO」：底層溶存酸素。水生生物が生きていくうえで不可欠な水中の酸素量。

※ 2 「NH₄-N」：アンモニウム態窒素。水生生物に影響を与える毒性を評価する指標。

2）水生生物による簡易水質調査（水生生物調査）

令和 5 年水質調査結果

水生生物は水質汚濁の長期的・複合的な影響を反映していると考えられており、これら水生生物の種類や数を調べることで、大まかな河川の水質状況を評価できます。

人間活動による河川への汚濁の影響を受け、水生生物がどのように変化するかという視点から行われた研究を基礎としています。

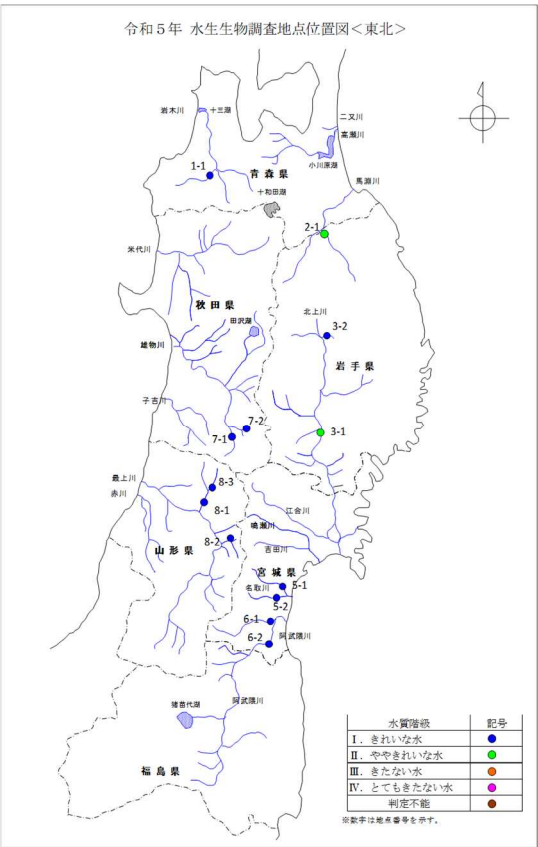
各水質階級を判断するための指標生物を設定しており、この生物により水質が判断されます。

また、多数の地域の住民（小中学校等）に参加して頂き、河川愛護の必要性を認識していただく良い機会にもなっています。

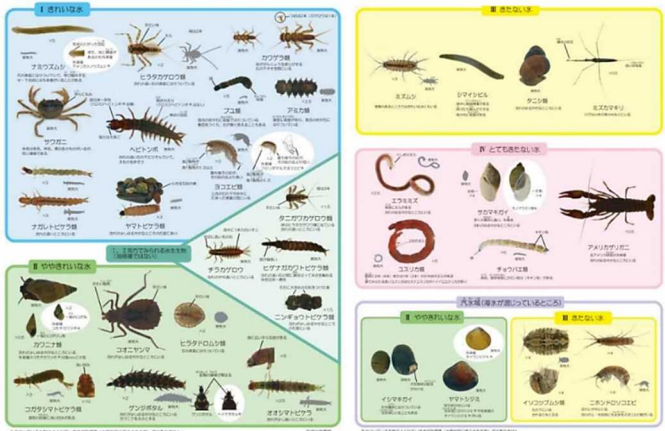
令和 5 年は 7 水系 13 地点で調査を行い、そのうち、住民等参加による調査は 6 水系 10 地点で、小中学生等延べ 267 人、12 団体の参加を得て実施しました。（※今後の河川水質管理指標による調査参加人数との重複あり）

調査結果は全地点で「きれいな水」、「ややきれいな水」となり、良好な状況となりました。

- 【指標生物について】
- ①全国的に見つけることができ、ある程度の数がい、夏の期間は必ずいる種。
 - ②誰にでも見つけることができ、似ている種が少なく、区別が簡単。
 - ③水の汚れ（有機物濃度）に対しては生息する幅が狭い生物。
 - ④水深の浅いところ（水深 30cm 以下）に生息している生物。



水質階級と指標生物



水系名	河川名	地点番号	地点名
岩木川	岩木川	1-1	弘前水辺プラザ
馬淵川	馬淵川	1-2	馬淵川河川公園
北上川	中津川	3-1	中の橋
北上川	広瀬川	3-2	桜木橋
名取川	広瀬川	5-1	JR広瀬川鉄道橋
名取川	名取川	5-2	JR名取川鉄道橋
阿武隈川	白石川	6-1	白幡橋
阿武隈川	阿武隈川	6-2	丸森橋
雄物川	雄物川	7-1	松ノ木河川公園
雄物川	成瀬川	7-2	成瀬川橋
最上川	泉田川	8-1	鮭川と泉田川の合流点
最上川	丹生川	8-2	丹生川大橋
最上川	金山川	8-3	安久土橋

5. ダイオキシン類実態調査結果

令和 5 年水質調査結果

ダイオキシン類とは、ダイオキシン類対策特別措置法に定義されている 3 種の化合物群です。毒性が強く、焼却、農薬等の製造、パルプの塩素漂白などで意図せずに生成され残留性が高い物質です。

令和 5 年に実施したダイオキシン類の実態調査では、いずれの地点においても水質・底質の環境基準（水質：1pg-TEQ/ℓ 底質：150pg-TEQ/g）を満足しました。

ダイオキシン類（※1）については、平成 11 年から管内 12 水系 56 地点において継続的に水質と底質の調査を実施しており、令和 5 年は **12 水系 12 地点**において調査を実施しました。
水質・底質ともに、年間の評価値では**全地点で環境基準を満足**しております。

調査結果の概要

	調査地点数	要監視濃度 ^{※2} を超えた地点数	環境基準値を超えた地点数
水質	12 地点	0 地点	0 地点
底質	12 地点	0 地点	0 地点

※1… ダイオキシン類対策特別措置法に定義される『ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン』『ポリ塩化ジベンゾフラン』『ダイオキシン様塩化ビフェニル』の 3 種の化合物群。非意図的に生成され、毒性が非常に強く、残留性が高い物質。

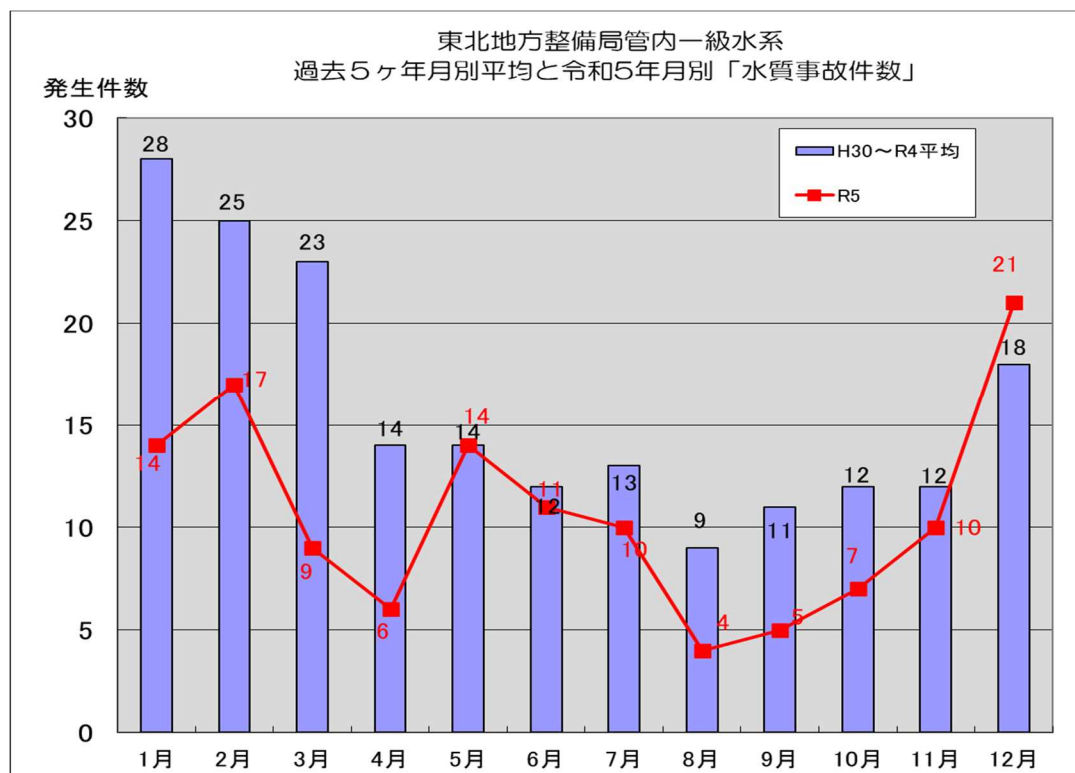
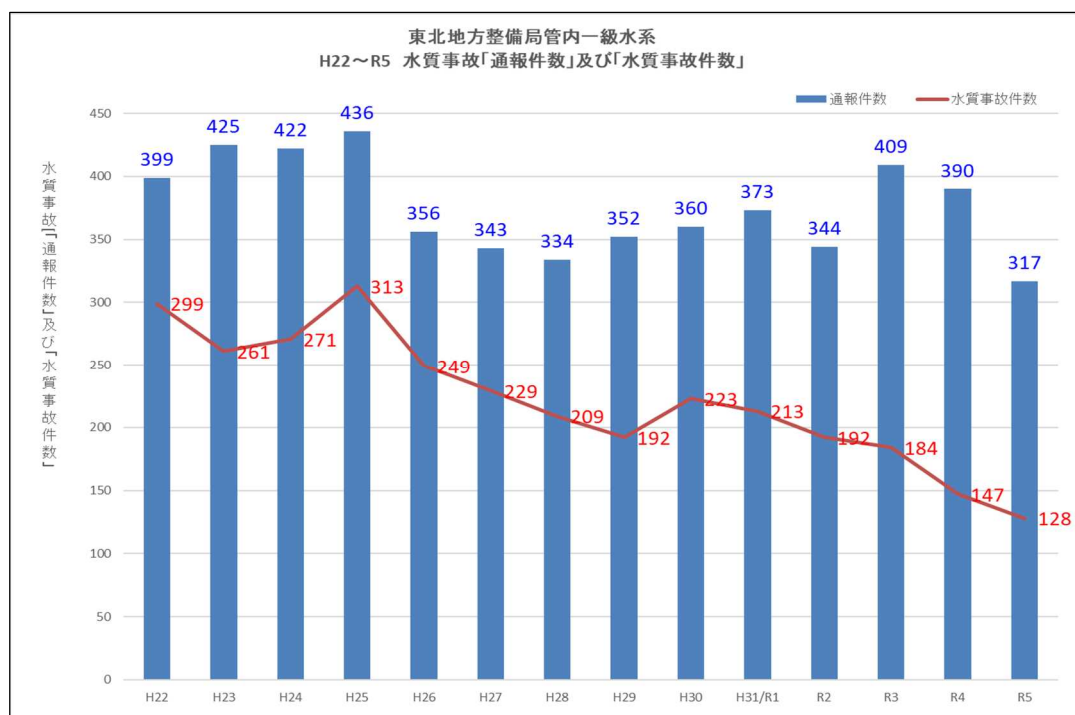
※2… 国土交通省が重点的に監視する際の目安として定めている濃度で、環境基準値の 1/2。要監視濃度を超えた地点については、その後の調査で 8 回連続して要監視濃度を下回るまで、重点監視地点として年 4 回の調査（通常の調査地点は年 1 回）を実施する。

6. 水質事故等の発生状況

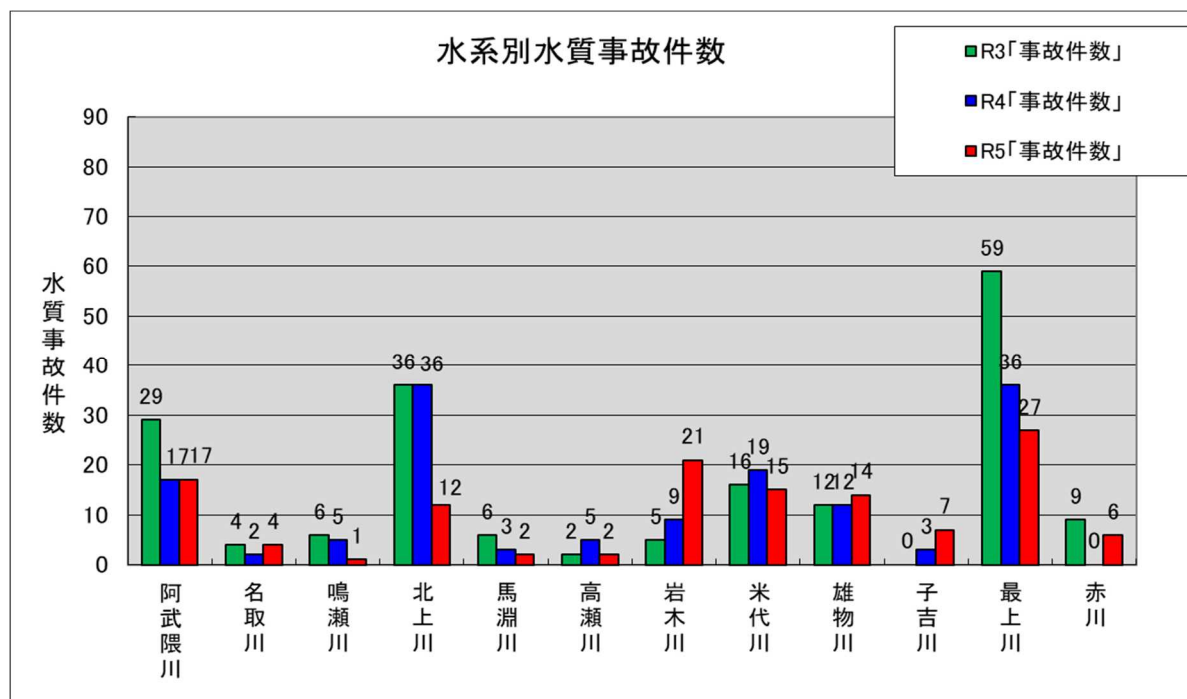
令和5年の東北地方整備局管内での水質事故「通報件数」は317件、内、公共用水域まで流出した「水質事故件数」は、128件。迅速な対応により通報のあったものの半数以上が水質事故に至らずに処理されている状況です。

年間の水質事故件数は平成30年以降、5年連続で減少しておりますが、灯油使用の機会が多くなる冬期間に水質事故件数が増加する傾向となっています。

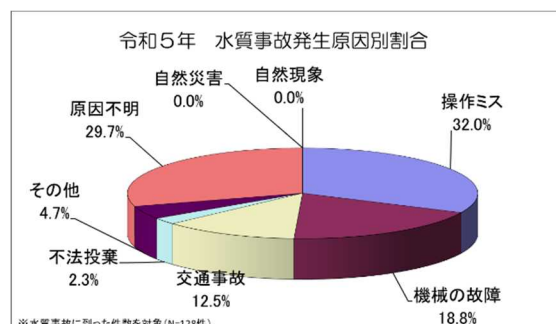
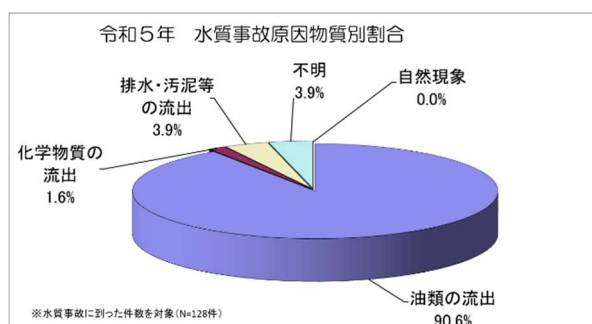
関係機関（国、県、市町村、消防、警察、水道部局等）による各水系水質汚濁対策連絡協議会を設立し、連携しながら水質事故対応にあたっています。



水系別では、最上川、岩木川、阿武隈川、米代川の順で水質事故が多い。



水質事故の原因は約 9 割が油の流出によるもの。家庭で灯油タンクから小分け中にその場を離れるなどの、不注意によるものが多い。



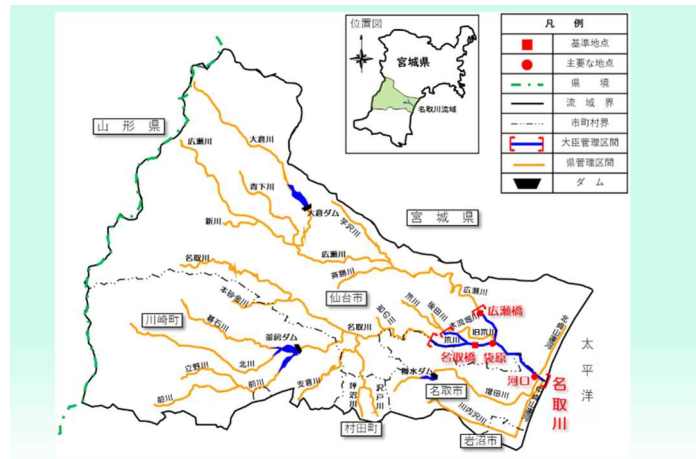
「名取川における水環境保全の取り組み」

名取川の管理を担当している仙台河川国道事務所から、水環境保全の取り組みについて紹介します。

1. 名取川流域の概要

名取川は、宮城・山形県境の神室岳に源を発し、碓石川や広瀬川など大小支川を合わせ、仙台平野を東流し、名取市閼上で太平洋に注ぐ幹川流路延長 55km、流域面積 939km² の一級河川です。

上流部は蔵王国定公園や二口峡谷等の県立自然公園の指定、磐司岩 や秋保大滝等の景勝地、河口部一帯は国指定仙台海浜鳥獣保護区や仙台湾海浜自然環境保全地域（宮城県）の指定に加え、井土浦 は「日本の重要湿地 500」（環境省）に選定されるなど、豊かで貴重な自然環境が随所に残されています。



名取川・広瀬川は、ともに藩政時代から利水施設が整備されるなど、古くから水利用がさかんであり、その多くを農業用水と発電用水が占めています。なかでも・農業用水としては、約 7,500ha に及ぶ耕地のかんがいに利用されるなど、流域住民の生活基盤の形成に寄与してきました。大倉ダム（S35 年竣工）、釜房ダム（S46 年竣工）は、利水の安定供給に寄与するとともに、洪水から地域を守るため治水機能（多目的）を発揮してきました。



写真1 利水施設（愛宕堰）

一方で、百万人都市の仙台市街地を貫流し、自然が多く、貴重な水と緑のオープンスペースとして、多くの人によって散策など周辺の公園整備等と相まった親水空間の利用がなされているほか、高水敷では芋煮会やイベント、水面では灯籠流し、アユ釣りなどに利用されています。地域の方々の河川環境への意識も高く、河川協力団体や住民等の参加による河川愛護活動、河川清掃等が積極的に行われ、河川環境を保全する取り組みを実施しています。



写真2 鮎釣りの状況



写真3 多目的な機能のダム（釜房ダム）

2. 水質事故の発生状況

名取川における公共用水域の水質事故は、近年では令和 3 年が 4 件、令和 4 年が 2 件、令和 5 年が 4 件となっています。

令和5年の水質事故の発生状況を見ると、原因物質別で4件とも油類であり、その原因は操作ミス及び機械の故障、交通事故によるものとなっています。操作ミスは及び機械の故障は、工場・事業所及び一般家庭において、取り扱いの不注意によるもので、その点を改善できれば事故件数を減らすことができるものです。

3. 水質汚濁対策連絡協議会の活動

河川水質汚濁対策及び河川環境の保全に関する関係機関相互の連絡調整を図ることを目的として、県、市町、消防、警察、水道部局、国土交通省、経済産業省などで構成する「水質汚濁対策連絡協議会」が設置されており、名取川水系水質汚濁対策連絡協議会では、水環境保全のため、次の取り組みを行っています。

① 「川をきれいにする」児童図画・ポスターコンクールの実施

宮城県内の名取川域内の小学校児童を対象に「川をきれいにする」ことについて認識を深めてもらうことを目的として平成14年度から毎年図画・ポスターの作品を募集しています。

多くの児童から作品の応募があり、表彰作品は、名取川流域市町の施設で巡回展示しており、多くの一般の方の目にも触れることで、ご覧になられた方々にも川について考えていただく機会となっています。

(写真-4～5)



(写真-4～5 左より R5年 ポスター部門特選作品、図画部門特選作品)

② 水生生物調査による簡易水質調査

中学校科学部の体験学習の一環として、広瀬川における水生生物調査を体験していただいています。川の中からどの生き物が多く見られたかを調べることで、観察した水生生物の生息状況から簡易水質調査を行い、児童たちと広瀬川の水質状況を知ってもらうとともに、河川の水質改善の必要性や河川愛護の重要性を認識してもらうため実施しています。

(写真-6～7)



(写真-6～7 中学校科学部による水生生物調査による簡易水質調査実施状況)

③ 水質事故対策に関する演習の開催

灯油等を扱う冬期を前に、水質汚濁対策連絡協議会を構成する自治体及び消防、事業所から水質事故対応担当者を対象とし、公共用水域に油が流出したことを想定して、油流出・拡散防止方法を習得し、水質

事故の適切な対応を図れるように、毎年開催しています。参加者に実際にオイルフェンスを設置してもらうなどの体験型講習や、油処理剤使用に関する注意事項や実演など、より理解度を深められるようにしています。
(写真-8～10)



(写真-8～10 水質事故対策に関する演習 実施状況写真)

④水質事故に関する広報の実施

毎年、油漏れなどの水質事故が発生しており、県や市町の広報誌、水質汚濁対策連絡協議会の関係機関のホームページや新聞広告等により、水質事故防止のための注意喚起による広報活動を行っています。

(写真-11)



(写真-11 水質事故防止（注意喚起）に関する新聞広告)

⑤流域一斉清掃

【広瀬川1万人プロジェクト実行委員会】は、杜の都・仙台のシンボルである広瀬川の自然環境を守り、多くの市民が親しめる広瀬川とするため、100万都市仙台の1%・1万人をキーワードとして、市民・企業・行政などで実行委員会をつくり活動を展開しています。

主な活動は、春と秋に実施している流域一斉清掃で、特に秋には「広瀬川の清流を守る条例」（1974年9月28日交付）にちなみ、毎年9月の最終土曜日に流域10数カ所で一斉清掃を実施しています。

名取川水系水質汚濁対策連絡協議会として、2箇所の清掃会場担当として清掃活動に参加しています。

(写真-12～13)



(写真-12～13 清掃活動写真)

4. 最後に

名取川は、東日本大震災の地震・津波により河口部中心に甚大な被害が生じた河川です。災害への備えのため、河川整備が見直され、背後地（堤内側）の利用計画も大幅に変わりました。河口部に整備された「かわまちてらす関上（商業施設）」が整備され、新たな河川のオープンスペースとして注目を浴び、多くの来訪者を迎え入れています。河川環境や河川景観への注目度が高まり、名取川・広瀬川の維持保全のために多くの方々が活躍しています。散歩、ジョギング、サイクリング等レクリエーション、清掃活動などに参加してみませんか。

参考資料

河川の水質現況 (BOD又はCOD)と環境基準の満足状況

水系名	河川名	地点名	令和5年				
			環境基準 (類型)	年間 平均値 (mg/L)	75%値 (mg/L)	環境基準 満足状況	
						○：満足 －：未設定	割合 (満足/全件)
阿武隈川	阿武隈川	阿久津	B	1.0	1.1	○	100% (14/14)
阿武隈川	阿武隈川	丸森	B	1.5	1.7	○	
阿武隈川	阿武隈川	岩沼	A	1.0	1.0	○	
阿武隈川	阿武隈川	高田橋	B	1.5	1.6	○	
阿武隈川	阿武隈川	黒岩	B	1.3	1.4	○	
阿武隈川	阿武隈川	須賀川	B	0.9	1.0	○	
阿武隈川	阿武隈川	伏黒	B	1.1	1.2	○	
阿武隈川	阿武隈川	舟場	B	0.9	1.1	○	
阿武隈川	阿武隈川	荒川	A	<0.5	<0.5	○	
阿武隈川	阿武隈川	信大橋	A	0.5	<0.5	○	
阿武隈川	阿武隈川	下宿	B	0.9	1.1	○	
阿武隈川	阿武隈川	摺上川ダム	A	0.6	0.7	○	
阿武隈川	阿武隈川	三春ダム	A	1.3	1.3	○	
阿武隈川	阿武隈川	七ヶ宿ダム	A	2.3	2.5	○	
名取川	名取川	三橋	B	1.0	1.2	○	88% (7/8)
名取川	名取川	前川	AA	0.6	0.5	○	
名取川	名取川	太郎川	AA	0.6	0.5	○	
名取川	名取川	北川橋	AA	0.6	0.5	○	
名取川	名取川	名取橋	B	1.1	1.1	○	
名取川	名取川	関上大橋	B	1.0	1.1	○	
名取川	名取川	名取川合流前	C	1.2	1.2	○	
名取川	名取川	基石川	AA	2.6	3.2	○	100% (7/7)
鳴瀬川	鳴瀬川	鹿島台	B	1.5	1.7	○	
鳴瀬川	鳴瀬川	落合	B	1.2	1.4	○	
鳴瀬川	鳴瀬川	善川橋	B	1.2	1.4	○	
鳴瀬川	鳴瀬川	下中ノ目	A	0.9	1.0	○	
鳴瀬川	鳴瀬川	三木本	A	1.0	1.1	○	
鳴瀬川	鳴瀬川	小野	B	1.2	1.1	○	
鳴瀬川	鳴瀬川	南郷	A	1.0	1.2	○	94% (46/49)
北上川	北上川	猿ヶ石川	A	0.9	1.2	○	
北上川	北上川	猿ヶ石川	A	0.7	0.6	○	
北上川	北上川	猿ヶ石川	A	0.7	0.9	○	
北上川	北上川	旧北上川	B	0.9	1.1	○	
北上川	北上川	旧北上川	B	0.8	0.8	○	
北上川	北上川	旧北上川	A	0.9	1.0	○	
北上川	北上川	江合川	B	0.9	1.1	○	
北上川	北上川	江合川	AA	0.5	0.5	○	
北上川	北上川	江合川	AA	0.5	0.5	○	
北上川	北上川	江合川	B	1.0	1.0	○	
北上川	北上川	砂鉄川	A	0.8	0.8	○	
北上川	北上川	雫石川	A	0.7	0.8	○	
北上川	北上川	御所ダム下流	A	0.7	0.8	○	
北上川	北上川	雫石川	A	0.6	0.7	○	
北上川	北上川	葛根田川	A	0.7	0.7	○	
北上川	北上川	南川	A	0.6	0.7	○	
北上川	北上川	小鬼ヶ瀬川	未	0.7	0.6	○	
北上川	北上川	小友橋	A	0.7	0.6	○	
北上川	北上川	前川	AA	<0.5	<0.5	○	
北上川	北上川	胆沢川	AA	<0.5	<0.5	○	
北上川	北上川	下風江	A	0.7	0.7	○	
北上川	北上川	望み大橋	A	0.5	0.5	○	
北上川	北上川	胆沢ダム貯水池	A	0.6	0.6	○	
北上川	北上川	尿前橋	未	0.5	<0.5	○	
北上川	北上川	中津川	A	0.6	0.7	○	
北上川	北上川	狐禅寺橋	C	1.3	1.5	○	
北上川	北上川	上の橋	A	0.7	1.0	○	
北上川	北上川	金ヶ崎橋	A	1.0	1.0	○	
北上川	北上川	狐禅寺	A	1.0	1.1	○	
北上川	北上川	珊瑚橋	A	1.0	1.1	○	
北上川	北上川	四十四田ダム下流	A	0.8	1.0	○	
北上川	北上川	紫波橋	A	0.8	1.0	○	
北上川	北上川	昭和橋	A	1.0	1.2	○	
北上川	北上川	船田橋(2)	A	0.8	1.0	○	
北上川	北上川	大泉	A	0.8	0.8	○	
北上川	北上川	朝日橋	A	1.1	1.2	○	
北上川	北上川	登米	A	0.8	0.9	○	
北上川	北上川	藤橋	A	0.9	1.0	○	
北上川	北上川	南大橋	A	0.7	0.8	○	
北上川	北上川	飯野川	A	1.2	1.4	○	
北上川	北上川	飯野川橋	A	0.8	0.8	○	
北上川	北上川	北上川橋	A	1.3	1.4	○	
北上川	北上川	北上大橋	A	0.9	1.0	○	
北上川	北上川	九年橋	A	0.7	0.8	○	
北上川	北上川	山室橋	AA	0.6	0.5	○	
北上川	北上川	切留	AA	1.1	1.5	○	
北上川	北上川	猿ヶ石川	A	2.7	3.1	○	○
北上川	北上川	江合川	AA	1.6	1.9	○	
北上川	北上川	御所ダム貯水池	A	1.8	2.2	○	
北上川	北上川	四十四田ダム貯水池	A	2.4	2.9	○	
北上川	北上川	湯田ダム貯水池	A	2.1	2.5	○	

湖沼における類型 (COD)

○印：環境基準を満足した地点、一印：環境基準類型指定が未設定の地点

水系名	河川名	地点名	令和5年				
			環境基準 (類型)	年間 平均値 (mg/L)	75%値 (mg/L)	環境基準 満足状況	
						○：満足 －：未設定	割合 (満足/全件)
馬淵川	馬淵川	櫛引橋	A	0.7	0.8	○	100% (3/3)
馬淵川	馬淵川	尻内橋	B	0.6	0.7	○	
馬淵川	馬淵川	大橋	B	0.7	0.8	○	
高瀬川	高瀬川	河口	A	3.3	4.1	○	0% (0/6)
高瀬川	高瀬川	高瀬橋	A	3.7	4.0	○	
高瀬川	高瀬川	小川原湖 (No.A)	A	3.9	4.5	○	
高瀬川	高瀬川	小川原湖 (No.C)	A	9.2	10.8	○	
高瀬川	高瀬川	小川原湖 (No.G)	A	23.4	27.3	○	
高瀬川	高瀬川	小川原湖 (No.H)	A	13.9	15.9	○	
岩木川	岩木川	安東橋	A	0.6	0.5	○	94% (16/17)
岩木川	岩木川	乾橋	A	1.4	2.0	○	
岩木川	岩木川	三好橋	A	1.3	1.8	○	
岩木川	岩木川	山田川河口	B	1.3	1.5	○	
岩木川	岩木川	十三湖大橋	B	1.0	1.5	○	
岩木川	岩木川	十三湖中央	B	1.2	1.5	○	
岩木川	岩木川	上岩木橋	A	0.9	0.7	○	
岩木川	岩木川	神田橋	A	1.1	1.4	○	
岩木川	岩木川	鳥谷川河口	B	1.1	1.0	○	
岩木川	岩木川	津軽大橋	B	1.6	2.5	○	
岩木川	岩木川	鶴寿橋	A	1.6	2.3	○	
岩木川	岩木川	幡能橋	A	1.3	1.8	○	
岩木川	浅瀬石川	朝日橋	A	0.8	0.8	○	
岩木川	平川	平川橋	A	0.7	0.8	○	
岩木川	平川	豊平橋	A	0.8	1.1	○	
岩木川	岩木川	津軽ダム	A	2.1	2.3	○	
岩木川	浅瀬石川	浅瀬石川ダム	A	2.8	3.0	○	
米代川	米代川	森吉山ダム	未	0.6	0.7	-	100% (5/5)
米代川	米代川	大工所	B	0.6	0.6	○	
米代川	米代川	新真中橋 (真中橋)	B	0.6	0.6	○	
米代川	米代川	鹿巣	B	0.7	0.8	○	
米代川	米代川	二ツ井	B	0.7	0.6	○	
米代川	米代川	能代	B	0.6	0.6	○	
雄物川	雄物川	藤太上橋	B	1.1	1.2	○	
雄物川	雄物川	岩崎橋	A	0.6	0.6	○	100% (11/11)
雄物川	玉川	玉川ダム	AA	0.5	<0.5	○	
雄物川	玉川	玉川橋	A	0.6	0.5	○	
雄物川	玉川	長野	A	0.5	<0.5	○	
雄物川	成瀬川	真人橋	AA	0.6	0.5	○	
雄物川	雄物川	岳見橋	A	0.6	0.6	○	
雄物川	雄物川	酒樽橋	A	<0.5	<0.5	○	
雄物川	雄物川	大曲橋	A	0.7	0.9	○	
雄物川	雄物川	橋川	A	0.7	0.7	○	
雄物川	雄物川	雄物川橋	A	0.6	0.7	○	
子吉川	子吉川	宮内	A	0.6	0.6	○	100% (2/2)
子吉川	子吉川	本荘大橋	B	0.6	0.5	○	
最上川	寒河江川	中村	AA	0.9	1.0	○	100% (19/19)
最上川	最上川	暮点橋	A	1.1	1.4	○	
最上川	最上川	谷地橋	A	0.8	0.8	○	
最上川	最上川	糠野目	A	1.4	2.0	○	
最上川	最上川	高屋	A	0.8	0.8	○	
最上川	最上川	砂越	A	0.8	1.1	○	
最上川	最上川	長井橋	A	1.1	1.2	○	
最上川	最上川	堀内	A	0.9	1.1	○	
最上川	最上川	南羽橋	A	0.9	0.9	○	
最上川	最上川	戸沢橋	A	0.6	0.6	○	
最上川	最上川	八千代橋	AA	0.6	0.6	○	
最上川	最上川	落合橋	B	0.8	0.7	○	
最上川	最上川	相沢川	A	0.8	0.7	○	
最上川	村山野川	舟戸橋	A	0.9	1.0	○	
最上川	丹生川	丹生川大橋	A	0.7	0.8	○	
最上川	園鳴白川	白川ダム	A	0.7	0.7	○	
最上川	園鳴野川	長井ダム	A	0.6	0.6	○	
最上川	立谷沢川	東雲橋	A	0.6	0.5	○	
最上川	寒河江川	寒河江ダム	A	2.1	2.4	○	
赤川	赤川	銀窟橋 (横山)	A	0.9	0.8	○	100% (4/4)
赤川	赤川	新川橋 (浜中)	A	0.9	1.1	○	
赤川	赤川	東橋	A	0.6	0.5	○	
赤川	梵字川	月山ダム	A	0.6	0.6	○	
東北管内合計							92% (134/145)

●河川における類型別環境基準 (BOD 75%値)

AA 類型：1mg/L以下

A 類型：2mg/L以下

B 類型：3mg/L以下

C 類型：5mg/L以下

D 類型：8mg/L以下

E 類型：10mg/L以下

●湖沼における類型別環境基準 (COD 75%値)

AA 類型：1mg/L以下

A 類型：3mg/L以下

令和5年東北地方一級河川の水質現況 概要パンフレット
Recent condition of water quality of class A river in Tohoku

<http://www.thr.mlit.go.jp/>



国土交通省 東北地方整備局
河川部 河川環境課

〒980-8602
仙台市青葉区本町 3-3-1 仙台合同庁舎B棟
Tel. 022-225-2171 (代表)

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism Tohoku Regional Bureau